

# 和歌山だより

平成26年11月号



じゃばら (北山村)

## CONTENTS

1. 和歌山県政トピックス・・・P1～P12
2. ふるさと歳時記……………P13～P14

「長崎がんばらんば国体・大会」への応援ありがとうございました。



## 「お知らせ」

今月の知事メッセージですが、11月30日には知事選挙があり、本メッセージが選挙運動のようにとられるといけませんので、今月号は休止させていただきます。

## 今月の和歌山県政トピックス

\* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

## ●「元気な和歌山」の実現に向けて平成27年度新政策が決定

- ・県では、景気回復に対する期待が高まる中、さらなる成長への道筋をつけるため地域経済の活性化に向けた政策を積極的に推進していく必要があります。同時に、若者の流出や少子高齢化による人口減少、甚大な被害が予測される南海トラフ地震など、県民の皆さんが不安を感じる様々な課題に的確に対応するため、平成27年度の新政策を決定しました。
- ・「元気な和歌山」の実現に向け、『安全と安心の政策』『未来への投資の政策』の2つを柱に、誰もが将来に希望を持ち、安心して暮らすことができる社会を目指し、引き続き力強く着実に取り組んでいきます。
- ・今後は、この決定した項目を踏まえ、市町村長との懇談会等を通して意見を聞くとともに、さらに内容を具体化し、予算化が必要なものについては知事査定を経て来年度の予算案として2月議会に上程されます。

### 安全と安心の政策

#### □災害から県民の命を守る安全の政策の推進

津波による犠牲者ゼロを目指し、「津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム」に基づき、河川・港湾等の堤防の強化、住宅の高台移転や避難ビルの建設による地域改造、避難施設、避難路等の確保等思い切った施策に取り組むことによって、津波対策を講じます。また、住宅や大規模施設の耐震化や住宅の耐震化を補完するための耐震ベッドなどの設置を促進する対策を推進していきます。

また、台風や局地的豪雨に対応するため、引き続き市町村の的確な避難勧告等の発令を支援するための高精度の降水予測情報を提供していくとともに、中小河川やため池の改修、国営総合農地防災事業などによる河川流域の総合的な洪水対策を実施していきます。

土砂災害対策については、土砂災害警戒区域等の早期指定に努めるとともに、土砂災害啓発センター(仮称)を開設し、土砂災害の発生メカニズムの解明や住民の危機意識の啓発等に取り組みます。

#### □暮らしに安心を届ける政策の強化

##### (少子化対策)

独身男女の出会いの場の提供や紀州3人っこ施策など、結婚、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない対策を行ってきました。少子化対策をさらに推進するため、若い世代に結婚や子育ての素晴らしさを認識してもらうための結婚・子育てポジティブキャンペーンを開催します。

また、特定不妊治療費助成の充実や多様な保育ニーズに対応した保育人材の育成と放課後児童クラブ、ファミリーサポートセンターなどの設置促進、小児医療提供体制の強化などに取り組みます。

##### (高齢者対策)

地域の「見守り」体制の構築や生涯現役社会の実現に向けた「健康」づくり、高齢者のニーズに応じた住まいと暮らしの「安心」確保、介護・福祉の「産業化」という「わかやまの老後に安心を届ける政策」を総合的に推進してきました。今後、要介護認定者の更なる増加が見込まれており、健康状態や所得に応じ自分らしく過ごせるよう、特別養護老人ホームなどの整備を計画的かつ着実に推進します。

さらに、自宅で医療を受けられる体制、介護サービスの充実や買物、通院等が不便な方への外出支援、見守り体制の強化などに取り組み、市町村と相談のうえ、それぞれの地域の特性にあった医

療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の構築を目指し、地域の中核となる「地域包括支援センター」の機能強化を積極的に支援します。

### (医療提供体制)

今後の医療需要を適確に予測し急性期から回復期、在宅医療・介護に至るまで一連のサービスが切れ目なく提供されるよう「地域医療ビジョン」を策定し、医療を提供する病院等の体制の再編を行っていきます。また、このビジョンに沿って、在宅医療従事者の確保や在宅医療を提供する機関等の設置促進など、高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らせる在宅医療提供体制を構築していきます。

## 未来への投資の政策

### □紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の開催

競技力向上のため、徹底した選手強化や医科学サポートの充実に取り組んできており、この成果を存分に発揮し紀の国わかやま国体での男女総合優勝を目指します。

### □地域経済を支える産業の強化

#### (商工業)

本県には、成長の可能性を秘めながらチャンスを活かさきれていない企業が多数存在します。そうした企業のチャレンジする意欲を喚起することで、地域産業全体の活性化を図る必要があります。

そのため、企業が求める商品開発支援等の情報を直接かつタイムリーに届ける施策を強化します。

また、第三者の目線から「カイゼン」すべきポイントを見出すアドバイザーを派遣し、生産性の向上を図り、金融機関とも連携しながら企業の経営基盤の安定・強化に取り組むことで、新事業へのチャレンジを後押しします。

企業の活力を生み出す人材を確保するため、本県出身の県外在住大学生に対する県内企業情報の提供やリクルートなどに引き続き積極的に取り組むとともに、これまで工業高校の生徒を対象として実施してきた、企業と連携した人材育成・就職促進の取組を、工業高校以外にも拡大します。

#### (農業)

農業従事者の減少や高齢化、農業所得の低迷といった問題に加え、T P P 交渉その他の貿易自由化への動きなど、農業を取り巻く環境はますます厳しくなっています。

このため、生産性の向上や高付加価値化など強い農業の実現が必要であり、「農地中間管理機構」に加え、県、市町村、JAなどで構成する「農地活用協議会」を通じて農地の集積・流動化を促進することにより、農業の規模拡大や新規参入を推進します。また、高品質果実の生産・流通対策の拡充により、「果樹王国わかやま」の競争力を強化します。さらに、これからの成長が期待される施設園芸を一層推進するとともに、畑作に必要な水利環境の整備に取り組みます。

#### (林業)

素材生産量の増加を図るため、高性能機械の導入や作業道等の基盤整備を推進するとともに、森林組合の技術力向上・経営体質強化、民間素材生産事業者との連携を図り、一層の低コスト林業の推進に努めます。また、「木の国和歌山」の将来への投資として、造林におけるシカ害対策に取り組みます。

#### (水産業)

水産資源を適切に管理しながら生産性を向上させる取組が必要であることから、漁業者に個別に漁獲量を割り当てることにより資源管理と生産性の向上を両立させる仕組みの導入を支援するとともに、磯根資源の種苗生産・放流により磯根漁場の再生に取り組めます。

#### (観光)

平成25年度の伊勢神宮式年遷宮に始まり、今年度の和歌山 destination キャンペーン、平成27年度の高野山開創1200年、紀の国わかやま国体・大会と切れ目なく「わかやま観光リレーキャンペーン」を実施し、効果的な誘客に取り組んできました。さらに、マーケットニーズや地域資源などを詳細に分析することにより、新たなターゲットに対し、魅力的な観光プランを提案していきます。また、平成28年の大河ドラマ「真田丸」を活用し、情報発信や特別企画を行うことによ

り、ゆかりの地をはじめ県内での滞在を促進するなど戦略的に誘客を進めていきます。

外国人観光客の更なる増加を目指し、外国語案内表示整備の加速化や通訳ガイドの養成強化、消費税免税店の拡充など受入環境のさらなる充実に取り組むとともに、国別の嗜好に応じ、Web、雑誌、映像などのメディアを有効に組み合わせることで積極的に「和歌山県」の露出を高めていきます。

#### □成長を支えるインフラ整備の推進

紀伊半島一周高速道路の実現に向けた近畿自動車道紀勢線の延伸や京奈和自動車道の国体開催までの県内全線の供用、大阪府との連携を強化する府県間道路の整備、川筋ネットワークの整備など、基幹となる道路ネットワークの更なる強化を図るとともに、次世代を想定した紀淡海峡ルートや京奈和関空連絡道路、フリーゲージトレインの早期実現に向けた活動を推進していきます。

また、事業の遅滞によるチャンスの喪失を生じさせないため、迅速な用地取得を可能とするための仕組みを検討していきます。

#### □都市の再生と魅力ある地域づくり

都市の再生に向け、県と市町が協力して都市計画の見直しに向けた土地利用案の策定等を進めており、引き続き公共交通ネットワークの再構築を含めた今後のまちづくりの計画策定を推進していくとともに、市街地の再開発プロジェクトについて立ち上げ期から事業完了までの各段階に応じた支援を実施します。また、地域で暮らしたい人に住居を提供する仕組みとして、空き家を改修して賃貸借を仲介するための定住支援住宅管理団体(仮称)の設置を検討します。

先人から受け継いだ優れた文化遺産や美しい景観等を適切に保全しつつ地域の魅力として活用、発信していくため、日本ジオパークに認定された「南紀熊野ジオパーク」を世界ジオパークへステップアップさせるための取組や、次世代に継承すべき伝統的な農業として「みなべ・田辺の梅システム」の世界農業遺産登録に向けた取組を、地元と一体となって推進していきます。

#### □人口減少社会に対応した効率的な行政の運営

基礎的自治体である市町村の業務が持続的・効率的に遂行できるよう市町村間の事務の共同処理(水平補完)や県による事務の補完(垂直補完)などについて、「県・市町村連携会議」において検討していきます。

#### □子どもの自立を育む教育と文化の振興 (教育)

自立した個人として心豊かにたくましく生きていく力を育むため、「道徳心を培う教育」、「学力の向上」、「体力の向上」、「ふるさと教育の充実」、「国際人の育成」、「就職支援」を6本の柱として取り組んできました。

より確かな学力を育成するため、優れた教育実践力をもつ退職教員を学校に派遣するとともに、小学校の全教員に国語・算数の研修を、また、中学校の数学科の全教員に研修を実施し、教員の指導力を強化します。また、授業についていけない子どもを一人も出さないよう、放課後や夏休み等を利用した「補充学習」をすべての小中学校で実施することになっていますが、この徹底に努めます。

加えて、子どもたちの国際人としてのコミュニケーション能力を高めるため、英語教員全員にTOEIC I Pテストの受験を義務付け、指導力・英語力の向上を進めるとともに、外国人講師を積極的に取り入れた授業の実施や、中学校3年生全員に英語の検定試験を受験させるなど、生徒の英語力向上のための環境を整備していきます。

#### (芸術・文化・スポーツ)

多くの人に和歌山の偉大な先人の業績を知ってもらい、和歌山への愛着や興味を抱いてもらうため、没後180年の節目を迎える華岡青洲のシンポジウムや南方熊楠記念館開館50周年記念の特別展、エルトゥール号の映画公開に合わせたプロモーションなどを開催します。

さらに、国体・インターハイを契機としたスポーツ気運の盛り上がりを全日本マスターズ陸上競技選手権大会(2017年)、ねんりんピック(2019年)、関西ワールドマスターズゲームズ(2021年)につなげ、生涯にわたりスポーツに親しめる環境を整備していきます。

●県の津波避難困難地域と津波対策

・県では、津波から県民の命を救い、死者をゼロとするため、「津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム」として、津波避難困難地域の解消のための対策を策定しました。

・和歌山県は、南海トラフの震源域に近いところに位置しているため、紀伊半島の特に南部では、津波の到達時間が非常に早いと予想されます。

・今回、「東海・東南海・南海3連動地震(3連動地震)」及び「南海トラフ巨大地震(巨大地震)」の2つの地震について、一戸一戸の家の位置まで徹底的に分析し避難先までの経路と距離を詳細に考慮して、津波到達時間までに浸水域外の高台や津波避難ビル等に避難することが困難な地域を津波避難困難地域として抽出しました。

○3連動地震の津波対策

・3連動地震による津波避難困難地域は、4町(すさみ町、串本町、那智勝浦町、太地町)の22地区で、面積は約85ha、人口は約4,000人となります。

・この地震は、約90～150年周期と発生頻度が高い地震として想定されるため、市町と協議を行い策定した住民の命と財産を守るためのソフト・ハード対策を最優先で実施します。

・津波避難困難地域において、すべての住民が津波から避難できるよう、①避難経路の詳細な設定・周知及び早期避難の徹底、②津波避難ビルの指定、③避難路・避難階段の整備、④津波避難施設の整備、⑤堤防・護岸の整備等を優先的、緊急的に推進します。

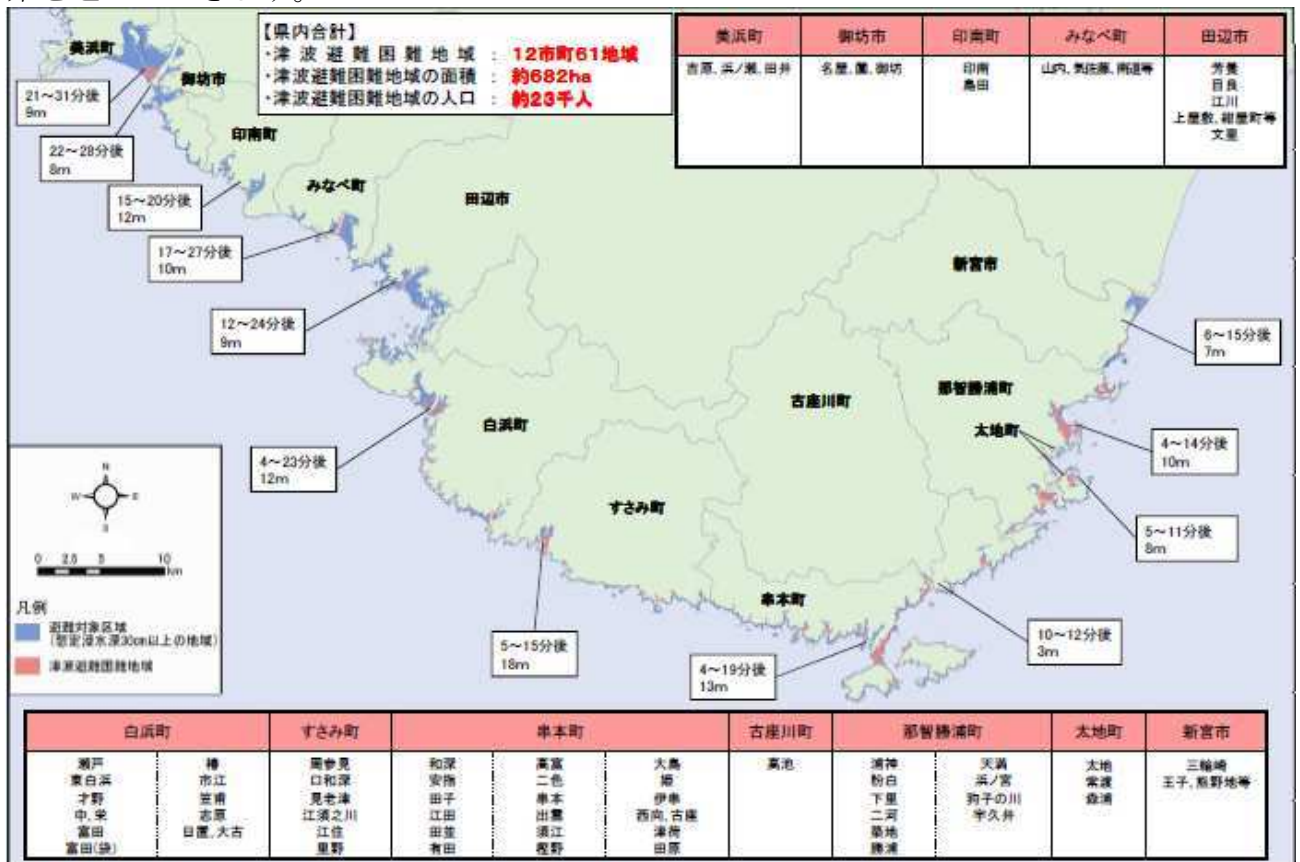
・今後10年間でこれらの対策を行うことにより、津波避難困難地域が解消し、すべての住民の命を守ります。

・また、津波避難困難地域以外の地域についても、経済被害を抑え、早期の復旧・復興につなげるための津波対策が必要であり、津波避難ビルの指定や避難路・避難施設の整備、公共施設の高台移転、港湾・漁港の堤防等の整備を10年を目途に積極的に進めます。



○巨大地震の津波対策

- ・巨大地震による津波避難困難地域は、12市町(美浜町以南の沿岸市町及び古座川町)の61地区で、面積は約682ha、人口は約22,700人となります。
- ・実際に発生したことを示す記録が見つかっておらず、発生頻度は極めて低いものの、仮に発生すれば甚大な被害を及ぼすものであり、津波から「何としても逃げ切る」ための対策を継続的に実施します。
- ・まず、3連動地震の津波対策を実施します。その対策だけでは津波避難困難地域の解消が困難な地域については、①高台移転や複合避難ビル等構造物の整備等による地域改造も含め市町において住民と相談して検討を行う必要があります。また、②避難経路の詳細な設定・周知及び早期避難の徹底、③津波避難ビルの指定、④避難路・避難階段の整備、⑤津波避難施設の整備、についても津波避難困難地域の解消に有効であるため、引き続き対策を進めていきます。



○基本的な津波対策

- ・津波避難困難地域の抽出と対策は、地震発生時から5分で全員が避難を開始することとしており、早期避難を徹底しなければ対策の効果が現れません。避難を確実なものとするため、「津波からの円滑な避難に係る避難路沿いの建築物等の制限に関する条例」を活用した避難路の確保を進めるとともに、住宅・大規模建築物の耐震化や家具固定を推進していきます。

○被害想定(参考)

- ・国においては、平成24年8月及び平成25年3月に被害想定公表が行われましたが、今回、県・市町村やライフライン関係企業など様々な機関の防災減災対策の基礎資料とすることと自助・共助の取組を促進する目的で、国の被害想定の手法を用いるとともに、県で行った津波浸水想定の結果を反映させ被害想定を実施しました。

・その結果、3連動地震における人的被害(死者数)は最大で19,200人、巨大地震では90,400人と試算し公表しました。この試算の前提として、地震発生の10分後に35%の人が、20分後に40%の人が逃げ始め、残りの25%の人が逃げないなどとしており、早期避難を徹底することにより大幅に被害を減らすことができます。しかも、平成23年度以降必死で取り組んできた避難路整備などの対策は一切考慮されていません。

・このような被害想定の数値だけを取り出して、大きく取り扱う報道が一部にありましたが、そもそも何万人死亡するかという情報は県民にとって、何ら役に立ちません。本当に必要な情報は、いかにして命を守ることができるかということであり、今回、その具体的な対策を策定したものです。今後、県民の皆さんに、正しく知って協力をいただき、津波対策を着実に進めていきます。

### ●津波災害対応実践訓練を実施しました

・10月19日、県は、南海トラフ地震などの大規模災害に備え、迅速な初動対応と災害対応力強化を図るため、関係機関と連携した救助救援活動などの訓練を県内各地で実施しました。

・今年度の「津波災害対応実践訓練」は、この訓練で初めてとなる緊急消防援助隊との合同訓練や、陸・海・空自衛隊及び在日米軍の全面協力により、全国でもかつてない大規模な訓練となりました。

・早朝、和歌山県で震度5強～震度7の揺れを観測したとの想定のもと、県職員、関係機関、住民の約6,400名がそれぞれの訓練に臨みました。各訓練地で、本番さながらの緊迫感あふれる訓練が実施されるとともに、災害対策本部では、災害発生から1時間、24時間、72時間後の想定で3回会議を開き、指揮を執った仁坂知事の指示に各部長が迅速に対応する一方で、慌てて対応する場面もあり、緊迫感に包まれました。

・さらに、今回の訓練では、南紀白浜空港、旧南紀白浜空港を拠点に、SCU(広域搬送拠点臨時医療施設)の開設をはじめとする医療機関と連携した陸・海・空からの人命救助(DMATの派遣、傷病者搬送)や、物資輸送など支援中心の訓練を実施するとともに、住民による津波避難訓練や道路啓開訓練等も行いました。

・また、海上保安庁、近畿地方整備局及び緊急消防援助隊等だけでなく、陸・海・空自衛隊からは護衛艦「いせ」や輸送ヘリ等が、在日米軍からは山口県の岩国基地から輸送機「MV-22オスプレイ」2機が参加する等、航空機34機、艦船8隻も活用されました。

・自治体の防災訓練に初めて参加した「オスプレイ」は午前9時過ぎに南紀白浜空港に着陸し、1機には日本赤十字社和歌山医療センターなどの医療チームが、もう1機には救援物資が乗せられ、約50km離れた串本町潮岬の広場に運びました。潮岬での荷下ろしには、



地元の方々から約150人も参加し、一列に並んだりレー方式で次々と救援物資を運びました。また、負傷者の搬送の優先順位を付けるトリアージ訓練も行われました。その後、沖合に待機する海上自衛隊の護衛艦「いせ」に負傷者を搬送する訓練も行われました。

・訓練終了後の記者会見において、仁坂知事は、「全ての要素が入った防災訓練になったと考えている。一層対策の精度を高めて、県民の命を助けたいと思う。」と実践訓練の総括を行いました。

## ●「みなべ・田辺の梅システム」が世界農業遺産申請へ！

・10月20日開催された農林水産省の世界農業遺産(GIAHS)専門家会議の評価結果を踏まえ、「みなべ・田辺の梅システム」が世界農業遺産に申請されることが農林水産省に承認されました。

・仁坂知事は、「申請者である「みなべ・田辺世界農業遺産推進協議会」の一員として取り組んでいる県としても大変うれしく思う。約400年にわたり礫質の傾斜地や山に住むミツバチなど地域の資源をうまく利用して自然と共生しながら、梅を中心とする農業を営んできたみなべ・田辺地域の人々により、優れた景観が形成され、生物の多様性が保全されるとともに人々の絆や文化も生まれてきた。こうした農業を通じた人々の営みが世界農業遺産にふさわしい日本の候補地として評価されたものと考えている。」とコメントしました。

・今後、みなべ・田辺世界農業遺産推進協議会が、国連食糧農業機関(FAO)に認定申請することとなりますが、県としても、みなべ・田辺の方々と一体となって取り組んでいきます。今後の予定は以下のとおりです。

- 平成26年 12月 協議会から世界農業遺産(GIAHS)申請書をFAOへ提出
- 平成27年1～3月 FAOによる現地調査(見込み)
- 平成27年5～6月 GIAHS国際フォーラムにおいて認定(見込み)

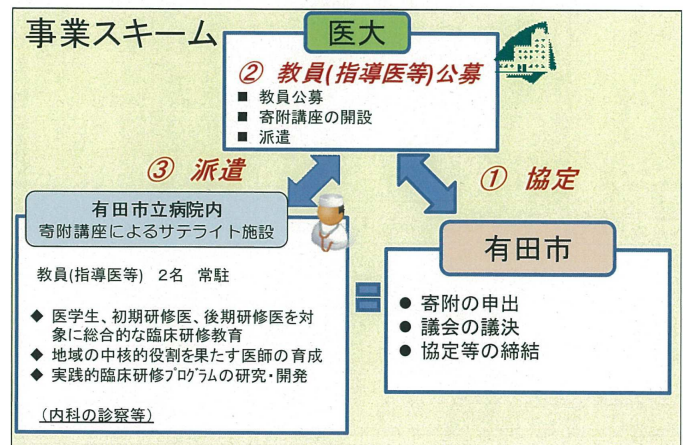
世界農業遺産は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり発達し形づくられてきた農業上の土地利用、伝統的な農業とそれに関わって育まれた文化、景観、生物多様性に富んだ世界的に重要な地域を次世代へ継承することを目的に、FAOが平成14年から開始しました。

## ●有田市立病院内に県立医科大学のサテライト施設を設置

・この度、県の提案により、有田市と県立医科大学の間で、地域医療の充実のために欠かせない指導医等の確保を目的とした寄附講座を設置することになりました。

・これは、医学生・初期研修医等若手医師に対する総合的・実践的な臨床研修教育の場の充実策として、また、地域医療機関で不足する指導医等の確保策として、県から両者に提案したことによるものです。

・今後、公募により教員(指導医等)を2名配置し、研修医等を指導し、また、不足する診療科の業務にも従事します。期間は5年間(10年まで延長あり)を想定しています。





●長崎がんばらんば国体 和歌山県選手団大活躍

・10月12日から10月22日まで開催された「第69回国民体育大会 長崎がんばらんば国体」において、県選手団は、男女総合得点1,063点を獲得しました。目標としていた1,220点には届きませんでした。男女総合(天皇杯)の順位は、昨年の東京国体の18位から15位へと順位を3つ上げ、着実にステップアップしています。

・10月22日の閉会式では、中村 法道長崎県知事から仁坂知事に大会旗が引き継がれました。いよいよ来年の国体開催まで320日余り、気運が高まってきましたが、「紀の国わかやま国体」での男女総合優勝を目指して、今後のご声援をお願いいたします。



「長崎がんばらんば国体」における 和歌山県選手団 星 総監督コメント

今大会は、男女総合成績1,220点、第14位を目標としていたところ、結果は、1,063点、第15位となり、昨年の東京国体の990.5点、第18位に比べ、72.5点増加し、順位を3つ上げることができました。男女総合得点が増加した主な理由としては、セーリング競技、自転車競技、なぎなた競技が総合優勝するなど実力を十分に発揮した競技があったこと、課題であった女子種別で得点が増えたことなどが挙げられます。

今回は、国体独特の雰囲気によって本来の力を発揮できなかった競技や、国体前の練習や試合で怪我をしたり疲労が残っていたりと調整に課題が残った競技もありました。今後は、明確になった課題を解決し、チーム和歌山一丸となり、天皇杯・皇后杯を獲得したいと思っております。

○長崎がんばらんば国体 優勝者

(順不同、敬称略)

競技	種別	種目	氏名	所属
セーリング	成年女子	セーリング スピリッツ級	宮川 恵子	和歌山セーリングクラブ
			栗栖 佐和	県セーリング連盟
	少年男子	シーホッパー級 スモールリグ	矢野伸一郎	県立和歌山工業高等学校
テニス	成年男子	団体	長尾 克己	紀洋石油株式会社
			奥 大賢	紀洋石油株式会社
レスリング	成年男子	グレコローマン スタイル75kg級	阪部 創	神奈川大学
		フリースタイル 57kg級	守田 泰弘	県教育庁
		フリースタイル 86kg級	奥井 眞生	国士舘大学
	少年男子	フリースタイル 74kg級	吉田 隆起	県立和歌山北高等学校

フェンシング	少年女子	フルーレ団体	西岡 真穂	県立和歌山北高等学校
			東 莉央	県立和歌山北高等学校
			東 晟良	和歌山市立紀之川中学校
陸上競技	成年女子	走高跳	井上 七海	株式会社オークワ

●紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会募金の寄附企業に感謝状贈呈

・10月28日、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会企業協賛制度における「オフィシャルサプライヤー」に新たに決定した企業及び「きいちゃん募金」に多額の寄附をいただいた企業の方々に、仁坂知事から感謝状を贈呈しました。仁坂知事は、お礼とともに「今年開催された長崎国体に負けなくらい盛り上げていきたい。」と抱負を述べました。

・提供いただきました物資は大会運営に、寄附金は両大会のボランティア活動や県民運動などの経費に活用させていただきます。



企業名(オフィシャルプレイヤー)		提供内容	出席者
(株)オークワ (平成24年オフィシャルパートナー)		お弁当及びお茶の提供	神吉 康成 代表取締役社長兼 COO
(株)オカザキ紀芳庵		飲料の提供	岡崎 悦也 代表取締役
サカイキャニング(株)		飲料水の提供	阪井 克行 代表取締役社長
寄附企業名	出席者	寄附企業名	出席者
(株)泉組	泉 巖 代表取締役	木下建設(株)	木下 匡史 代表取締役

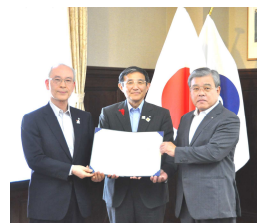
●第2弾「大学のふるさと」調印！！

・10月8日、「大学のふるさと」制度に基づく第2弾として、本事業のモデルとなった摂南大学(大阪府寝屋川市)とすさみ町が、さらに摂南大学と由良町が、それぞれ地域交流事業を実施することとなり、調印式が行われました。

・この事業は、9月号でもお知らせしましたが、人材育成における実践的教育や社会的責任として地域活動に関心が高い大学が、過疎地域の方々とともに地域課題の解決に向けた協働活動を行い継続的に交流するもので、県独自の取組です。

・調印に立ち会った仁坂知事は、「高齢化が進む地域に、若い人達が頻繁に来てくれ、町の人と話し合いや勉強、交流をすることはとてもありがたい。教室内での学問だけでなく、実際のフィールドで経験や実践をして、青春を謳歌していただき、それに地域もあやかりたい。」と期待を込めました。

・県では、引き続き、多くの市町村と大学がこの制度を利用して継続的に交流を深め、過疎地域の課題解決につなげていけるよう、主に都市部に所在する大学に本制度をPRしていきます。



●外国人旅行者の呼び込みに向け、県内45店舗が免税店に！

・平成26年度税制改正により、外国人旅行者向け消費税免税制度が見直され、10月1日から、これまでの家電、時計、バッグや衣料品等に加えて、菓子類・飲料品・医薬品や化粧品等、消耗品すべてが免税の対象となりました。

・この制度は、国が作ったものですが、世界でも類を見ない画期的なものとなっています。買い物をした際に全体額で5,000円を超えれば対象となり、個々の商品が安価であっても全体額で判断されることとなります。これにより、普通のお店が免税店になることが可能となりました。さらに、その場で免税ができるため、観光客が空港に行つての還付手続き等が不要となっています。

・県では、本制度改正をさらなる外国人旅行者誘致及び地域振興の絶好の機会と捉え、県内事業者の方々が新制度をしっかりと活用できるよう、県内各地で説明会開催や事業者への個別訪問等により、申請支援を行ってきました。

・こうした取組により、新たに38店舗が税務署から免税店許可を受け、既免税店の7店舗と合わせて県内45店舗となりました。そして、14店舗が税務署に申請中となっています。

・これで締め切ったわけではありませんので、県では、引き続き免税店の拡充に取り組んでいくとともに、免税店情報の外国人旅行者用ガイドブック掲載や海外プロモーションでの露出強化等、情報発信に努めます。

○県内免税店舗(県観光交流課調)



【免税店シンボルマーク】

申請者	本店所在地	免税店舗名称
(株)西本	和歌山市	カメラの西本 本店
(株)黒潮市場		黒潮市場
和歌山マリーナシティ(株)		和歌山マリーナシティホテル
(株)はやし		紀三井寺温泉花の湯はやし
(株)番茶屋		番茶屋
ユタカ交通(株)		わかやま旅案内所
阪本万美		Deli+Table t i . p o
(株)重岡	橋本市	天然温泉 ゆの里
(株)西岡酒店		酒の世界 和歌山インター店、西浜店ほか
紀州漆器協同組合	海南市	紀州漆器伝統産業会館(うるわし館)
中野BC(株)		長久庵
(株)角長	湯浅町	角長
(株)オオミヤ		オオミヤ 和歌山本店
(株)セキネ	有田川町	ガーデンパーク店、パームシティ店ほか
(株)ふみこ農園		ふみこ農園
丸山信仁	御坊市	丸仁商店
(株)岡畑農園	田辺市	プラムガーデンオカハタ
(株)プラス		産直市場よってって いなり店ほか
(株)むさし	白浜町	むさし
(株)福菱		福菱
寒川次郎		紀州焼 葵窯 窯元

(株)ドン・キホーテ	東京都	ドン・キホーテぶらくり丁店 MEGAドン・キホーテ紀の川店
イオンリテール(株)		イオン和歌山店
イズミヤ(株)	大阪市	和歌山店
(株)近鉄百貨店		(株)近鉄百貨店 和歌山店

●プレミア和歌山PRイベントを開催

・10月20日、ホテル椿山荘(東京都文京区)において、プレミア和歌山PRイベントを開催しました。県では、農林水産物、加工食品、工芸品など“和歌山のめぐみ”の中でも特に優れたものを「プレミア和歌山」に認定し推奨していますが、メディア関係者や料理研究家など、情報発信力のある方に向けてPRするために初めて開催したものです。



・冒頭、仁坂知事が、「プレミア和歌山には、安心・安全はもちろん和歌山らしさという夢が含まれている。その夢を共有し広く伝えて欲しい。」と挨拶した後、残間 里江子プレミア和歌山推奨品審査委員会委員長から、「産品としての素晴らしさはもちろん、生産者の想いやストーリーもお伝えしていきたい。」とプレミア和歌山に対する想いが語られました。

・さらに、残間委員長の御尽力もあり、プレミア和歌山の魅力を強く発信いただける以下の5名の方に「プレミア和歌山パートナー」に就任いただき、それぞれ和歌山の食や和歌山への想い、意気込みなどについてトークが繰り広げられました。最後には、マグロやマダイ、熊野牛など、プレミア和歌山の中でも海や山の豊かな恵みを使用した料理が振る舞われ、参加者全員が堪能しました。

・今後、プレミア和歌山パートナーの皆さんには、お気に入りのプレミア和歌山認定商品について、消費者や友人・知人への推奨など、プレミア和歌山のファンづくりを推進するための伝道師としての役割を果たしていただきます。皆さんも、是非プレミア和歌山推奨品をお買い求めください。<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/061000/premierwakayama/>

○プレミア和歌山パートナー

泉 麻人さん(コラムニスト)、荻野 アンナさん(作家・仏文学者)、クミコ さん(歌手)  
弘兼 憲史さん(漫画家)、山本 一力さん(作家)

●県特産ぶどう山椒を使った新作チョコレートがフランス・日本で発売！

・10月2日、六本木の国際文化会館(東京都港区)において、各界の著名人が招待される中、フランスを代表するパティシエ フレデリック・カッセル氏が開発した、県特産のぶどう山椒を使ったチョコレートの発表会が開催されました。

・県では、今年4月、フレデリック・カッセル氏のスイーツを日本で販売する 株式会社 レイジースーザンの商品開発担



## 今月の和歌山県政トピックス

当者を県内の山椒産地に案内。その品質の高さが、カッセル氏に高く評価され、今回の商品開発につながりました。

・今後、カッセル氏のチョコレートは、パリで開催されるサロン・デュ・ショコラに出品されるほか、フォンテーヌブロー(フランス)、ハイアットリージェンシー京都、三越銀座店で、来年1月下旬に販売が開始される予定ですので、皆さんも是非お買い求めください。  
※フレデリック・カッセル氏…フランスを代表するパティシエ。フランスのほか、ベルリン、カサブランカ、三越銀座店、東急百貨店本店、ハイアットリージェンシー京都に店舗を持つ。世界最大級の見本市にて開催されるコンテスト「クープ・デュ・モンド・ドゥ・ラ・パティスリー」で、フランスを優勝に導いたチームリーダー。

※サロン・デュ・ショコラ…パリを皮切りに、ニューヨーク、ボルドー、東京、ソウル、上海、チューリッヒなど、世界16都市で開催されるチョコレートの祭典。

## ●コンビニスイーツ「わかやまポンチ」販売中

・11月7日から、関西及び四国・中国地方のファミリーマート約2,900店舗において、ファミリーマート版わかやまポンチ「わかやまポンチ～ハチミツじゃばらムース～」が発売されています。

・この商品は、“ポンチJr.”こと、和歌山大学教育学部附属小学校4年C組の児童たちが参加し、和歌山トライアンズ 川村 卓也

選手も特別審査員として参加して7月7日に実施された「わかやまポンチ」の試作コンペにおいて、第1位に選ばれた「和歌山大好きポンチ」をもとに開発された商品です。

・いよいよコンビニスイーツ「わかやまポンチ」が店頭が登場しますが、11月11日には、開発からこのプロジェクトに参加した「ポンチJr. 和歌山大学教育学部附属小学校4年C組の児童たち」がファミリーマート和歌山県庁前店及び和歌山ロイネット店において、“子ども店長”として、わかやまポンチ販売の先頭に立って頑張ります。

・価格は250円(税込)、皆さんも機会がありましたら、是非御賞味ください。



## ●県内小学校へ「かき」を提供しました

・すでにお知らせしてきましたが、県では、和歌山のおいしい食材を子どもたちに知ってもらう地産地消の取組として、県内小学校・特別支援学校の給食や家庭科等の教材として使用する主要農水産物の提供を行っています。

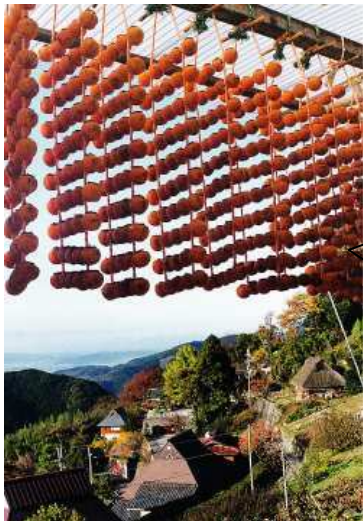
・「うめ」、「もも」に続き、本年度の第3弾として、県内すべての国公私立小学校256校と特別支援学校7校に「かき」を提供し、子どもたち自らが包丁を使った皮むきや調理実習等の体験を行いました。

・また、農家の方や県職員が以下の学校に出向き、「かきの生産状況」等について、子どもたちに説明する出前授業を行いました。出前授業を受けた子どもたちは、「とてもおいしかった。かきは種類がたくさんあって、色々な料理にも使えることがわかった。」と話すなど大好評でした。



イベント情報(11月11日～12月10日)

期間	行事名	場所	問い合わせ先
11/14	熊野那智大社「紅葉祭」	那智勝浦町・熊野那智大社	熊野那智大社 0735-55-0321
11/15～ 2/28	白良浜イルミネーションイベント 「白砂のプロムナード」	白浜町・白良浜	白浜観光協会 0739-43-5511
11/23	四郷串柿まつり	かつらぎ町・四郷地区	串柿まつり実行委員会 0736-22-0550
11/24	食祭WAKAYAMA	和歌山市・ 和歌山城砂の丸広場	和歌山市食のイベント実行 委員会 073-435-1234
11/22～ 11/26	翔龍祭	田辺市・龍神ドーム	翔龍祭実行委委員会 事務局 0739-78-0830
11/23	獅子舞奉納	田辺市・万呂須佐神社	田辺市観光協会 0739-26-9929
		上富田町・八上神社	八上神社 0739-47-2032
12/5	仙人風呂開湯式	田辺市・川湯温泉	熊野本宮観光協会 0735-42-0735
12/7	ねんねこ祭り	串本町・木葉神社	古座観光協会 0735-72-0645



串柿の里として知られるかつらぎ町の四郷地区は、400年前から串柿の特産地として長い歴史と伝統を育んできました。生産量が日本一というだけでなく、家々の軒先や長い柿屋(干場)に吊るしてあるあかね色の串柿は玉のれんのように、晩秋の風物詩として、訪れる私達の目を楽しませてくれます。

自然・風物情報(11月中旬～12月上旬)

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
11月中旬	串柿づくり最盛期	かつらぎ町・四郷地区	かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
11月中旬	白良浜冬支度 砂防ネット設置	白浜町・白良浜	白浜町観光協会 0739-43-5511
11月中旬	新酒の仕込み始まる	新宮市・尾崎酒造	尾崎酒造 0735-22-2105
11月中旬	ジャンボクリスマスツリー お目見え	和歌山市・マリーナシティ	マリーナシティ 0570-064-358
11月中旬	ローズフェスティバル	白浜町・平草原公園	白浜町観光課 0739-43-6588
11月中旬	有田みかん出荷始まる	有田市・ JAありだ、ありだ共撰	JAありだ、ありだ共撰 0737-83-2288
11月下旬	紅葉見ごろ	和歌山市・紅葉溪庭園	和歌山城管理事務所 073-435-1044
		田辺市・奇絶峡	田辺観光協会 0739-26-9929
		新宮市・瀨峡	熊野交通(株) 0735-22-6220
11月下旬	大銀杏色づく	田辺市・中辺路町	中辺路観光協会 0739-64-1470
11月下旬	子授け銀杏色づく	古座川町・三尾川	古座川町観光協会 0735-72-0645
12月上旬	熊野那智大社で 大絵馬の掛替え	那智勝浦町・熊野那智大社	熊野那智大社 0735-55-0321
12月上旬	白良浜イルミネーションイベント	白浜町・白良浜	白浜町観光課 0739-43-6588
12月上旬	海霧の発生	串本町・田原の海岸	串本町観光協会 0735-62-3171
12月上旬	センリョウの収穫	印南町・真妻地区	JAみなべいなみ 0739-72-4387
12月上旬	「するめーる」 年賀状バージョン	すさみ町	すさみ町商工会 0739-55-2293



光泉寺境内の推定樹齢400年の子授け銀杏と呼ばれる大銀杏は、高さ約30m・幹回り6mの大きさがあり、11月中旬～12月上旬に見頃を迎えます。

## ～編集後記～

和歌山市でも早くも木枯らし1号が吹くなど、日ごとに寒さが増しておりますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

1月5日は、安政の南海地震が発生した際に濱口梧陵が刈り取った稲に火をつけて、村人を救ったという「稲むらの火」が故事として語り継がれる日です。平成23年からこの日は、「津波防災の日」として定められています。このことに関連して、今月号では2つ紹介させていただきました。一つは「津波避難困難地域の津波対策」です。東海・東南海・南海三連動地震が発生したときには、県下の4町に避難困難地域があることが分かりました。しかし、こうした分析結果や被害想定を公表するだけでは意味がありません。どのようにして全員を助けるかという対策を考え実行していくことが行政の仕事です。今回その対策も併せて発表しましたし、今後はそれにしっかり取り組んでいかなければなりません。また、県民の皆さんにも、地震が発生したらまず逃げるとか、自宅の耐震化や家具の固定で身を守っていただくとか、日頃の心構えをお願いしたいと思います。

2つめは防災訓練です。今年の訓練は、かつてない大規模なものとなりました。自衛隊の護衛艦や航空機をはじめ、自治体の訓練では初めて米軍のオスプレイも参加しました。大規模災害が発生した場合、県民の皆さんの命を救うためには、使える手段はあらゆるものを利用する必要があります。もちろん、災害が発生しないことに越したことはありませんが、最近では広島での大規模土砂災害や御嶽山の噴火など、地震や津波だけでなく、いっどこでどんな自然災害に見舞われるかわかりませんので、あらゆる災害に対応できるよう、日頃からの訓練の必要性を実感させられています。

さて、長崎国体も終わり、いよいよ「紀の国わかやま国体」の開催まで、320日余りです。長崎では、得点、順位とも目標にわずかに届きませんでしたでしたが、強化課題が早く見つかったものと前向きに捉え、チーム和歌山一丸となって来年の総合優勝に向けがんばっていきます。一層の御協力と御支援をお願いいたします。

朝夕はめっきり肌寒くなり、一日の寒暖差も大きくなっています。私の周りにも何人か風邪を引いている者がおりますが、皆さんくれぐれも御自愛ください。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

\*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2014年(平成26年)11月 NO.79

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022